



ウンカ類発生状況報告書



(トビイロウンカ発生程度別基準)

※要防除水準

程度	無	少	中	多	甚
株あたり虫数	0	1～5	6～21	21～50	51以上

(セジロウンカ発生程度別基準)

※要防除水準

程度	無	少	中	多	甚
1株あたり虫数	0	1～10	11～50	51～100	101以上

(ヒメトビウンカ発生程度別基準)

※要防除水準

程度	無	少	中	多	甚
1株あたり虫数	0	1～2	3～5	6～10	11以上

(植物防疫協会 イネの病害虫より)

調査日:令和5年7月19日

調査田	捕殺数(株あたり虫数)		
	トビイロウンカ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ
岸和田市積川町	0頭	0頭	0.013頭 (75株当たり1頭)
和泉市国分町	0頭	0頭	0頭
泉大津市虫取町	0頭	0頭	0頭

今回の調査においても、トビイロウンカは確認されませんでした。また、大阪府内の他の予察灯においても直近では発見はされておられません。しかしながら、岡山県において飛来が確認されておりますので、引き続きほ場内をよく観察し、発生にはご注意ください。

大阪府農政室推進課病害虫防除グループ		病害虫発生・防除情報メールサービス	
水稻			
いもち病			
	特徴	◆ 低温多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などで助長される。	
葉いもちの病斑	防除のポイント	◆ 常発ほ場で箱施用剤を使用できない場合は、発生前にオリゼート粒剤、コラトップ粒剤5、ゴウケツ粒剤、サンブラス粒剤などを散布する。 ◆ 発生を認めたらブラシフロアブルなどを散布する。	
縞葉枯病(ヒメトビウンカ)			
		特徴	◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。 ◆ り病株では、新葉が垂れ下がって枯死する(ゆうれい症状)。
縞葉枯病発病株	ヒメトビウンカ 成虫	防除のポイント	◆ ヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。 ◆ 発生が多い場合は、アプロード水和剤、スタークル粒剤・アルパリン粒剤、エクシードフロアブルなどを散布する。
斑点米カメムシ類			
			特徴
アカスジカスミカメ	イネホソドリカスミカメ (アカヒゲホソドリカスミカメ)	ホソハリカメムシ	◆ アカスジカスミカメ、イネホソドリカスミカメ(別名アカヒゲホソドリカスミカメ)、ホソハリカメムシなどの発生が多い。 ◆ 畦畔のイネ科雑草などから飛来する。 ◆ 薬剤散布は穂揃期に行う。
防除のポイント			◆ 出穂10日前までにほ場周辺の畦畔や休耕田の除草を実施する。
ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)			
		特徴	◆ 成員の殻高は2~7cm程度。 <small>注)成員の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。</small>
成員	卵塊	カラー技術資料 「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう!」はこちら http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf	
防除のポイント			
◆ ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。 ◆ 水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効。 ◆ ほ場が凸凹の場合、深いところの稲が食害されるため、代かきをきちんと行い、ほ場を平らにする。 ◆ 用水路からの侵入を防ぐため、取水口や排水口に金網(編目5mm以下)を設置する。			

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所
*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

● 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。(http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
● 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。